

研究課題 (テーマ)		学科全学生を対象としたレポート作成指導システムの構築	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	環境・社会基盤工学科	講師	坂本 正樹
	環境・社会基盤工学科	教授	川上 智規
		教授	楠井 隆史
		教授	伊藤 始
		准教授	奥川 光治
		准教授	立田 真文
		准教授	星川 圭介
		講師	佐伯 孝
研究結果の概要			
<p><u>①学年進行に応じたレポート作成指導方法の整理</u></p> <p>本学では、「レポートにおける不正行為の取り扱いについて」のガイドラインが策定され、H28年度から運用されるようになった。しかし、これは学生側がレポートの書き方について十分に理解していることが前提でなければならない。また、学科教員間で共通の認識のもと、体系的な指導が行われる必要がある。そのため、学科内にワーキンググループを設けて課題を整理した。レポートの形式については、すべての講義・実験・実習・演習で統一した。また、体系的な指導を行うため、学年進行に合わせて求めるレポートの質を上げていくなど、成績評価に関する基準を学科教員間で共有した。</p> <p><u>②学生への指導に活用できる冊子の作成 (学科教員, 学生に配布)</u></p> <p>①を踏まえ、レポートの構成や注意点 (有効数字, 図表, 引用・参考文献等の記載方法や不正行為に関する注意など) についてまとめたテキスト (冊子体とオンライン版) を作成した。冊子体テキストは H29 年度オリエンテーションで、学科の全学生に配布した。</p> <p>すでに、H29 年度からは全学年を対象として、テキストに従った指導が開始されている。特に新生生に対しては、前期必修科目の概論 (環境工学概論, 社会基盤工学概論のそれぞれ) において、レポート作成指導のための時間を設けるなど、学科全体での取り組みが始まっている。テキストの内容は卒業論文や修士論文を意識したものであるため、入学から卒業・修了までの一貫した指導が可能になった。</p>			
今後の展開			
<p>学生がレポートの組み立て方や記載方法 (単位や有効数字, 図表, 参考文献の適切な利用等) をしっかり学ぶことで、不正行為を防止できるだけでなく、卒論や修論, 学術論文を作成する上での基本的なマナーと作文技術を修得することが出来るようになる。当学科において今回作成したテキストは、必要に応じて修正や更新を行うが、今後も継続的に使用する予定である。</p>			